

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援きたはまキッズわくわく		
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 1日		～ 令和7年 12月 23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 1日		～ 令和7年 12月 23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○訪問先施設評価実施期間	令和7年 12月 1日		～ 令和7年 12月 23日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 12
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・主な訪問先が同じ敷地内にあるため、情報共有しやすい環境である。	・気になることがあった時にすぐに相談、共有するようにしている。 ・その子の目標や課題が見えやすい場面がどこか相談してから、訪問するようにしている。	・訪問先との信頼関係を築いていき、気軽に相談できるような関係づくりに努めていく。
2	・ソフトを使って訪問した日の様子を保護者にすぐに報告し共有できている。	・訪問した際の子どもの様子だけでなく、担任の先生と情報共有したことなども細かく伝えるように配慮している。	・保護者の方も子どものクラスでの課題や目標が分かりやすいような記入の仕方が出来るように工夫していく。
3	・同じ事業所の児発も利用しているので、児発と訪問先両方の様子を見ることができる。	・児発でうまくいった点や訪問先でうまくいった点を共有し合っている。 ・訪問先で利用児童が困っている場面でも事業所職員がすぐに介入しサポートできる。	・より共通した支援ができるように訪問先の職員にも児発の様子を定期的に見に来ていただけるような受け入れ体制を整えていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・訪問日と訪問時間が限定的で少ない。	・訪問先と事業所との日程のすり合わせが上手くできず、時間が限定的になってしまっている。	・見通しを持って早めに調整できるように配慮していく。
2	・タイミングを合わせて利用児童一人一人の課題がある場面を訪問できることが少ない。	・訪問先の行事や活動内容に合わせて課題や目標が見えにくい場面の訪問になることがある。	・事業所と利用児童の課題や目標について更に共有を図っていく。
3	・職員一人一人のスキルアップの向上が必要である。	・開業したばかりで細かいところまで共通理解などができていないことがあった。	・研修などに参加して、子どもの特性への理解や声掛けの方法などを学ぶ機会を増やし、職員のスキルアップを図っていく。